

市民が主役!

# 「まちづくり協議会」の挑戦!!

自分たちの手で「住みよいまち」を!

地域を自分たちの力でさらに住みよいまちにしようと

今年度から祝吉、五十市、横市、沖水、庄内、西岳の

6地区で活動を開始した「まちづくり協議会」。

それぞれのまちづくり協議会の活動目的や将来の目標像について紹介します。

◎問い合わせ コミュニティ課 ☎23-7146

## 「地域を取り巻く環境の変化」

近年、社会情勢の変化や価値観の多様化などから「お互いに助け合う」という地域住民同士のつながりが希薄になり、地域を取り巻く環境が大きく変化してきました。そこで、地域コミュニティの充実や強化を図るため、住民相互あるいは住民と行政による協働のまちづくりを推進しながら、地域が中心となって地域の将来の夢や身近な課題を実現・解決できる地域密着型の住民自治組織が求められています。

## 「まちづくり協議会の誕生」

このような中、市内の各地区にこれまでにない新しい組織や取り組みについての協議が始まり今年度6地区に「まちづくり協議会」(以下 まち協)が誕生しました。現在、6地区では、住民が主体となって、地域の将来像を描いた「まちづくり計画」を策定中です。

## 「運営費としての『我がまち交付金』」

市では、財源と権限を地域に移し、住民主体の協働のまちづくり

を目指しています。その一環として、今年度「我がまち交付金」を新設し、6地区のまちづくり協議会へ交付しました。現在の金額は、運営費相当分として150万円で、将来は、各地区の各種団体に出されている補助金がこの交付金へ統合・一本化される予定です。この交付金の一番の特徴は、住民に使い道を決めてもらうことにあります。地域全体で意見を出し合い、連携・協働して事業を進めることによって、より大きな効果が生まれると期待されています。

## 「出来ることから始めています」

まち協が設立された6地区では、公園管理作業の受託やのぼり旗の作成など、さまざまな事業を始めています。また、来年度にかけて地域を再発見するための地図作成や子どもの見守り活動の支援・強化、まちづくり講演会の開催などに取り組んでいます。

## 「6地区以外状況」

現在、妻ヶ丘地区、中郷地区、姫城地区の3地区では、協議会設立に向けて準備中です。また、そのほかの地区においても、自治公民館長会や各種団体の研修会などで、まちづくり協議会についての学習会を開催しています。

## 「まちづくり協議会が目指すもの」

地域には、資源や人材が豊富にあります。まち協は、この「地域の力」を自分たちが掲げるまちづくりのために生かし、積極的に活動していくことを目指しています。地域みんなの力と知恵を結集し、特色を生かした地域づくりを進め、さらに住みよいまちにしていきたいでしょう!



平成22年5月7日設立

## 西岳地区

### まちづくり協議会

会長 坂元 和雄

「自然豊かで人情味あふれる笑顔のまち西岳」をキャッチフレーズに、西岳の良さを再発見し、誇りと自信を持って未来を見つめ、地域の発展と活性化につながるまちづくりを目指します。

平成22年6月30日設立

## 庄内地区

### まちづくり協議会

会長 釘村 美千也

「地域のことは地域の手で解決していこう」を合言葉に、地域の魅力を発信しながら、住みよいまちづくりを目指します。

平成22年8月18日設立

## 横市地区

### まちづくり協議会

会長 鎌田 久雄

母智丘神社など歴史資源と桜を代表する自然を生かした地域活動のさらなる活性化を目指しています。そのため、地区住民に地元のことを知ってもらえるように「よこいちマップ」を作成します。

平成22年8月20日設立

## 祝吉地区

### まちづくり協議会

会長 立山 静夫

あやめ祭りやホテルの里の保存活動、子どもの健全育成活動、福祉活動、見守り活動など、これまで行ってきた活動を充実させ、暮らしやすいまちづくりを目指します。

平成22年8月29日設立

### ”住みよいまち沖水“協議会

会長 植村 幹雄

今まで社会教育関係団体等連絡協議会が中心となっていた地区大運動会やおきみず祭り、成人式、見守り隊をまち協で取り組み、住みよいまち沖水”を目指します。

平成22年9月3日設立

## 五十市地区

### まちづくり協議会

会長 吉岡 隆宏

地域づくり部会、青少年部会、環境・防犯部会、健康福祉部会の4つの分野に分かれ、さまざまなアイデアを提案し検討していきます。元気なまち五十市地区を目指します。

# 特色を生かした 地域づくりを進めます

◎インタビュー



◎西岳地区まちづくり協議会  
会長 坂元和雄さん

西岳地区では、高齢化率50%を超えている地区がほとんどで、まちづくりの事業の中に福祉対策を盛り込むことが重要になってきています。高齢者が利用できる農産物直売所の設置やふれあいバスの運行など、誰もが住みやすいまちづくりを目指します。

◎インタビュー



◎庄内地区まちづくり協議会  
会長 釘村美千也さん

庄内地区では平成18年から「庄内をどうにかしないといかん」という地区住民の意識から自主的に検討し始めました。来年度からは、多くの事業を行う予定ですが、将来は、自分たちの力で関之尾滝から庄内川の両側の堤防を整備して、公園として活用できるようになればと考えています。